

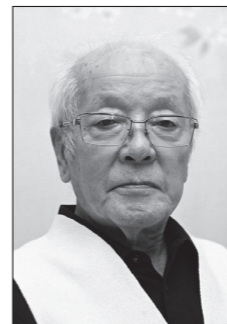


【上村松園 略年譜】

明治8年 京都・四条御幸町の葉茶屋の次女として生まれる。
 明治20年 京都府画学校に入学、鈴木松年に師事する。
 明治23年 第3回内国勸業博覧会に
 「四季美人画」を出品し一等褒状を受章。
 昭和6年 ベルリン日本美術展に「虫干しの図」が出品され、
 ドイツ政府に寄贈、翌年二等赤十字章を受章する。
 昭和12年「雪月花」(三幅対)を皇太后に献上する。
 昭和23年 女性で初めての文化勲章を受章する。
 昭和24年 8月27日没。享年74。



【監修者のことば】



浮世絵をはじめとする、それまでの「美人画」は、流行のファッションを身に付けた花魁や女優などが華麗に描かれ、庶民に親しまれてきました。

松園の独創性は、伝統的な京文化や謡曲、文学などを盛り込んで女性美の理想像を描き出したところにあり、何物にも侵しがたいような崇高な芸術にまで高められた作品の数々は、古画の模写、人物写生などの研鑽によるものです。

晩年の松園は、自身の芸術に対してゆるぎない境地に至り、円熟の画風を見せはじめます。

「四季の美人画」では、そんな松園のおだやかな内面を体現するかのような、珠玉の4作品を選びました。そこに描き出される女性は、まるで四季の妖精のように、清らかな美をたたえます。

日本の美しい季節をさらに麗しくお過ごしいただければ、望外の喜びです。

日本画家・松伯美術館長
上村淳之

上村松園「四季の美人画」〈額装〉

監 修：上村淳之（日本画家・松伯美術館長）
 解 説：内山武夫（美術評論家・前京都国立近代美術館長）
 本紙寸法：清韻／48×51.6cm
 蜩／48×57.3cm
 待月／48×56.5cm
 牡丹雪／48×58.1cm
 額 寸 法：○×○
 印 刷：コロタイプ印刷12色
 発 売：株式会社アートデイズ

税込価格 **352,000円**
 (本体320,000円+税10%)

孫の上村淳之画伯が選んだ松園晩年の傑作美人画四点



上村松園 四季の美人画

監修 上村淳之
 (日本画家・松伯美術館長)

Art Days

穢れなき気品ただよう
 柔らかなまなざし…。



お申し込み方法	電 話	☎03-3353-2298 (平日10時~18時)
送料1,000円 <small>(沖縄・離島を除く)</small>	F A X	別紙申込用紙にご記入の上、 FAX 03-3353-5887 へ送信下さい
<small>※沖縄・離島は合計金額に関わらず実費の送料がかかります。</small>	メー ル	info@artdays.co.jp へ住所、お名前、お電話、ご注文商品名、お支払い方法(下記参照)明記の上送信下さい

お支払い方法 **銀行振込**(前払い)(振込手数料お客様負担)
 ※分割払い可(3回)注文時・翌月と翌々月のお支払い。

●銀行振込の方は下記にお振込下さい(入金確認後発送)
 みずほ銀行四谷支店 普通口座2164274 (株)アートデイズ

※ご注文から発送までの日数は約10日です。商品によっては多少お時間がかかる場合がございます。(営業日は、土日祝日を除いた日数です) ※お客様のご都合によるキャンセル・返品は、開封前の商品に限り商品到着後8日以内にお送り下さい。(お客様送料負担) ※商品が不良品だった場合、到着後8日以内にメールまたは電話でご連絡下さい。良品と交換させていただきます。(弊社送料負担) ※お客様の個人情報は、商品発送のほか、当社からのご案内以外の目的には利用致しません。ご案内が不要の方はお知らせ下さい。 ※このカタログは印刷物のため、作品の色合い等に関しては、実際の作品と多少異なりますので予めご了承下さい。

春

たおやかで凜とした
その表情は、
限りなく優美で清らか。

清韻

昭和18年(1943)西宮市大谷記念美術館蔵

青楓を背にした若い美人画。この作品を描いた頃、松園は「花のうてなに坐る思いで——今安らかに絵三昧の生活に耽っている」と制作の歓びを語っている。
自己の芸術に対する安心立命の境地に入っていたのであろう。



夏

繊細な衣装や
装身具から艶やかな
雅がよみがえります。

螢

昭和18年(1943)西宮市大谷記念美術館蔵

松園の絵には、失われゆく古い京の美しさへの懐かしみが示されている。松園の描いた女性たちにより、古都の美的感覚はしっかりと後世に伝えられてゆくだろう。



待月

昭和19年(1944)足立美術館蔵

秋の宵、手すりに肘つき月の出を待ちわびる美人図。薄物の着物の下に淡臙脂と、白の柘目模様たんえんじの襦袢が透ける描写にも、松園の卓越した力量が現れている。

牡丹雪

昭和19年(1944)足立美術館蔵

牡丹雪の降るなかを歩む二人の娘。右方と上部に大きくとった余白と娘たちの姿態の組み合わせの巧みな構図により、生き生きと描かれた雪の情景。浮世絵や古画によって研究を重ねた成果がうかがわれる。



秋

はんなりと香る
崇高な美は
磨き抜かれた表現の証。

冬

麗しい四季の情緒には、
時を超えた輝きがある。